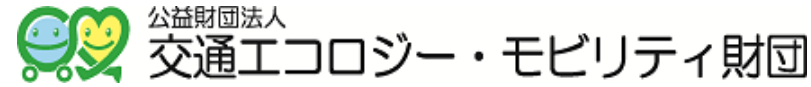


福祉送迎車両に関する利用者アンケート調査報告



URL : <http://www.ecomo.or.jp/>
TEL : 03-3221-6673

1.調査目的と内容

1)調査目的

障害者の施設、特別支援学校等においては、リフト付き等の様々な福祉送迎車両が使用されているが、施設管理者や教育委員会等から運行事業者に送迎を委託する時の仕様以外は統一的な仕様はなく、リフトの操作性、車内設備の使い勝手等の利便性や安全性の確保が課題となっています。

本調査は、福祉送迎車両の利便性・安全性向上を図るため、福祉送迎車両の利用者に対しアンケート調査等を実施し、その調査結果をまとめました。

◎謝辞

アンケート調査にご協力いただきました保護者ならびに教職員の皆様には、感謝申し上げます。ご協力いただき、ありがとうございました!!

2)調査内容

上記のアンケート調査のほか、特別支援学校の福祉送迎車両の利用状況の視察・ヒアリング、車両特装メーカーや運行事業者に対するヒアリングを行い、福祉送迎車両の安全性や利便性などの課題と国内での開発動向、福祉送迎車両に関する現行法規や保安基準の整理を踏まえ、車両設備改善の方向性を検討するとともに利便性、安全性の向上策を整理し、実現可能性について検討しました。



調査の対象とした大型バス



リフトでの乗車

2.利用者アンケート調査

福祉送迎車両に対する改善ニーズを把握・整理するため、2018年8月に福井市内で開催された全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会（会員校 207 校）の総会において、保護者及び教職員にアンケートを配布し、保護者 108 件、教職員 8 件の回答がありました。

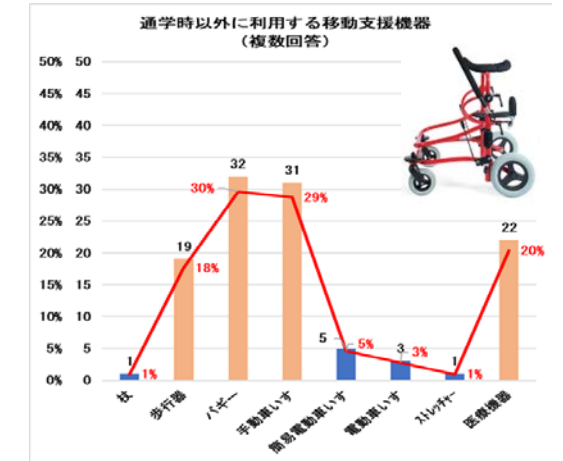
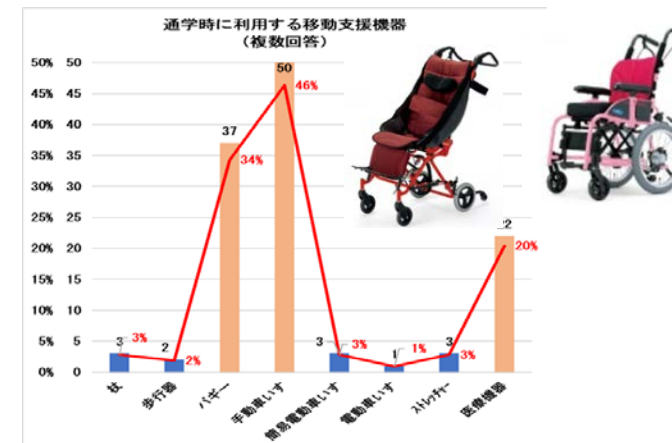
◎保護者アンケート結果

Q1 回答者の特性（都道府県、通学者の年齢）

- ・19 都道府県から回答が得られた（特に岐阜県、茨城県が多い）
- ・児童・生徒の年齢は、6 歳から 18 歳まで

Q2 児童・生徒が使用する通学時の移動支援機器、医療機器について

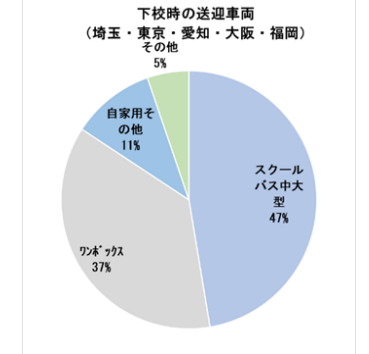
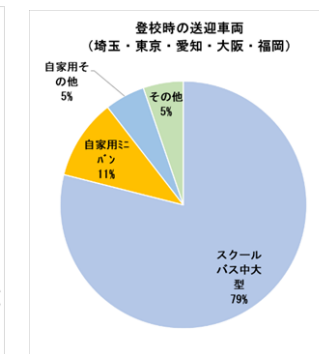
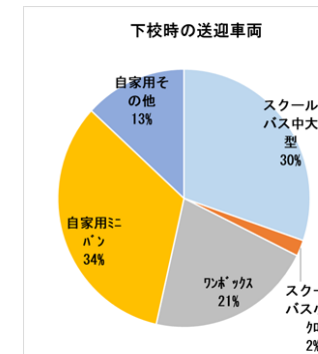
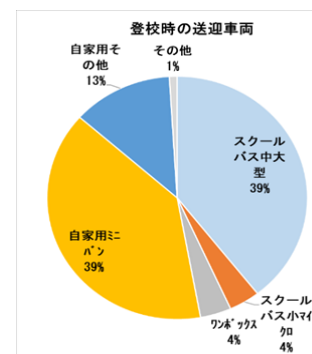
- ・通学時は、「手動車いす」が 46%、「バギー」が 34% で大半
- ・通学時以外では、「歩行器」の使用が 18%（通学時の使用は、2%にとどまっており、送迎車両内や学校での使用に制約があると推測）



Q3 登下校時の使用車両のタイプ/乗車時間/乗降方法

《車両タイプ》

- ・登下校時に同じ車両を使用している児童・生徒が 60%、異なる車両を使用している児童・生徒が 40%（※下校時は、放課後デイサービス事業所の提供する送迎車両に乗車する機会が多い）
- ・登校時の使用車両は、「中大型バス」と「自家用ミニバン」がともに 40%弱（※ミニバンは、家族等による送迎による）
- ・大都市（東京、埼玉、愛知、大阪、福岡）に限ると、「中大型バス」の使用割合が 80%程度と高い



《乗車時間》

- ・登校時の乗車時間は、31 分以上が 45%、1 時間を超える場合が 5%

《乗降方法》

- ・乗降する際の扉の位置は、後部扉・横扉が半々
- ・「中大型バス」の場合は、横扉の利用が多い。
- ・乗車方法は、リフト (22%) 他に抱きかかえての乗車が 51%

Q4 乗降場所、乗降で困っていること（道路空間、荒天時の対応等）

- ・「屋根や日よけがない」との回答が最も多い
- ・「自宅から乗降場所まで遠い。雨天時に雨に濡れる。路線バスと乗り場を共用しているため乗降時間が重なると申し訳なく思う」など他の回答もあり

Q5 車いすの固定やシートベルトの使用状況

- ・車いすの固定方法は、ほとんどが前向き
- ・体幹ベルトの装着率は、登校時 52%、下校時 44%
- ・シートベルトの装着率は、登校時 61%、下校時 62%

Q6 車いすの固定やシートベルトで感じていること

- ・運転士のみへの対応となるので、車いすの固定に時間がかかる／車いすの固定が不安
- ・車いす同士の間隔が狭いため、後ろの児童・生徒とぶつからないか不安
- ・胃ろうなどにより、体幹ベルトやシートベルトを付けられない
- ・3点式シートベルトの方が安心

Q7 送迎車両に対する自由意見（要望やアイデア等）

- ・運行情報の提供：GPS 等によるバスの接近情報が欲しい など（全5件）
- ・添乗スキルの向上：スキルのある添乗員に同乗して欲しい など（全4件）
- ・医療的ケア児の利用：呼吸器を使用しているが送迎バスに乗せてほしい など（全4件）
- ・車両の小型化：小型車両を導入して自宅近くの狭い道路まで来てほしい など（全2件）
- ・空調設備：空気清浄機もあるとインフルエンザ対策になると思う など（全2件）
- ・その他：バギーで乗れると良い、楽しい空間であってほしい など

◎教職員アンケート結果

スクールバスの工夫

- ・寝た姿勢で乗車できるようにリクライニングシート等、児童・生徒の実態に合うシートの採用
- ・児童・生徒の移動の力と乗るバス停の順番で座席位置を決めている
- ・車止めや車いす置き場(乗せ場)を手作り/乗降時の踏み台の使用

スクールバスの現状

- ・吸引等、医療的ケアが必要な児童・生徒は利用できない

スクールバスへの要望

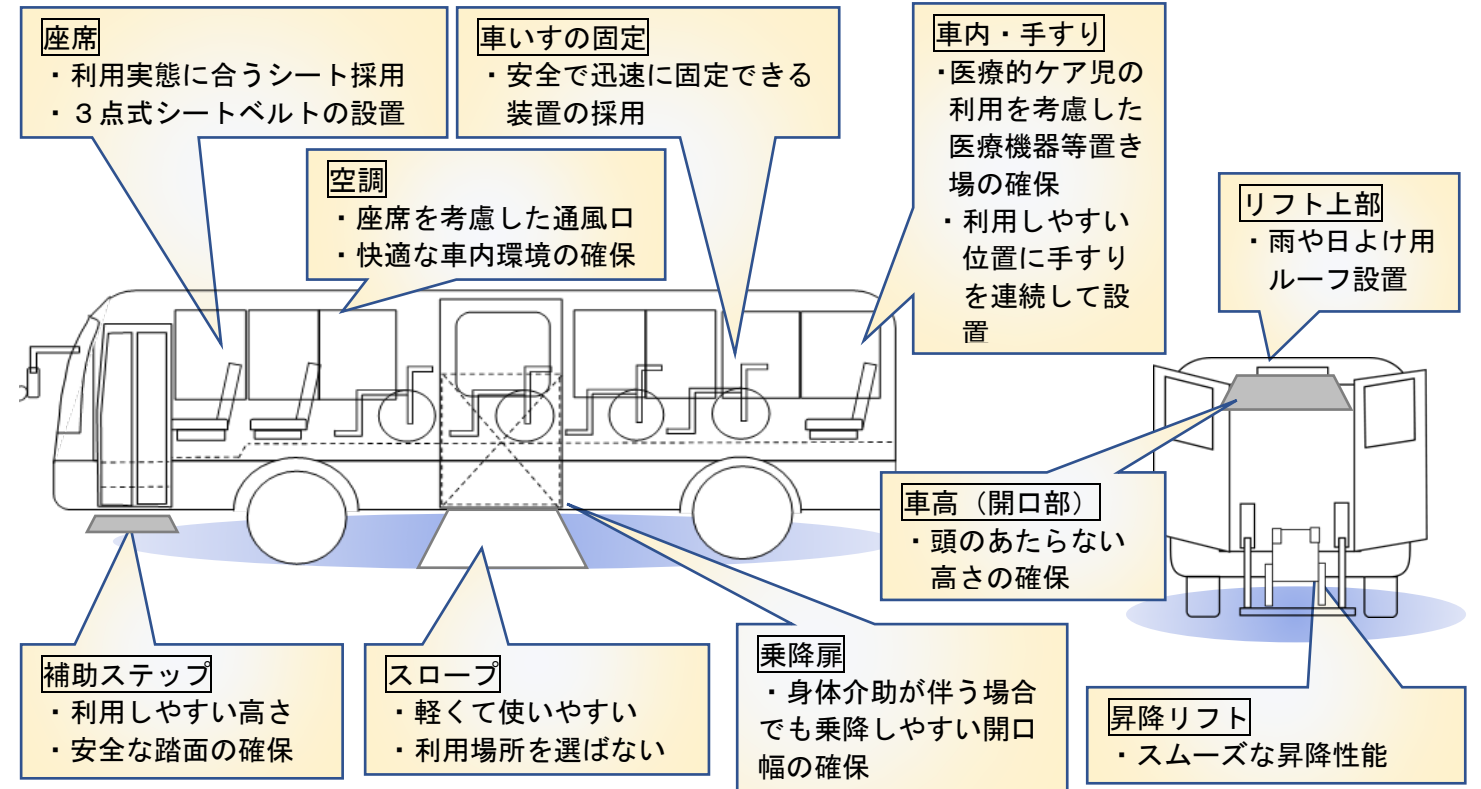
- ・古い車両の更新/車検等審査の迅速化/車いすのまま乗車できるバスを増やしたい
- ・昇降リフトへの屋根の設置/添乗スキルの向上や乗務員の高齢化の改善を望む

なお、岐阜県岐阜希望ヶ丘特別支援学校、三重県城山特別支援学校、東京都小平特別支援学校には、スクールバスの視察、ヒアリングにもご協力いただきました。ありがとうございました！

3. まとめ

利用者アンケートやヒアリングの結果をもとに、車両特装メーカーや運行事業者が参加する検討会を開催し、車両設備改善の方向性について整理しました。地域別に異なる利用特性や各特別支援学校の工夫を尊重しながら、安全面と利便性向上の両面からの車内設備のあるべき姿を提案し、福祉送迎車両の利用環境を向上していきたい。

利便性・安全性を考慮したあるべき姿



将来的に使いやすい車両の方向性

- バスを利用する児童・生徒が毎年度変わるため、乗車定員内でのレイアウト変更の容易性を向上させる
- 体幹保持が必要な児童・生徒の座席への移乗、着席、シートベルトや胸ベルトの併用、座席にカーシートを載せることなどにより、安全性向上に最大限配慮する
- 車いす以外の児童・生徒用に乗降扉の拡幅、ステップの高さや奥行の見直し、乗降時の補助となる手すりなど、車内外の設備の利便性向上に配慮する
- 肢体不自由の児童・生徒に加え、知的障害者などの他の障害児との同乗や医療的ケア児の利用ニーズの対応を検討する。
- 校外学習等での高速道路の利用を考慮する
- コンセントや日よけ等の一部で使用しているものの応用的な利用を検討する

今後の運行システムの方向性

- 利用者ニーズに合った車両の手配や運行に関する継続的な改善を図るため、スクールバスの業務委託契約の複数年契約方式の拡大など